

〔古事記下卷〕穴穗御子康安興軍圍大前小前宿禰之家爾到其門時零大氷雨故歌曰意富麻幣袁麻幣須久泥賀加那斗加宜加久余理許泥阿米多知夜米牟

〔古事記傳二十二〕宿禰は遠飛鳥宮段歌に須久禰チとある是此號の正しく見えたるなり正しく見ゆ

〔假字書〕を云なり書紀私記に昔稱皇子爲大兄又稱近臣爲少兄也宿禰之義取於少兄也とある此意の稱なり但し允恭天皇の御名にも負給へるは御兄の御名大兄云々に對へて少兄チ申せるなり

此文の次に或說帝王相親云曾古爾禰與蓋敬とあるは甚幼く云に足ぬこチさて此は古はたゞ

臣等を尊み親みて云る稱にして姓の加婆禰になれるは淨御原御世より始められたる第一真人第二朝臣第三宿禰なりさて其時諸氏に賜へるを見るに宿禰は多くは舊連なりし氏々に賜へりき

〔南留別志三〕一宿禰宿尼少名同じ事なるべし

〔倭訓彙編十二〕すくね 宿禰と書りもとはそこねといひて足禰と書り大宿禰といふ事も見えたり舊事紀に近宿殿内と見えてそこにねよとの義なりといへりされど釋に稱王子云大兄稱臣下云少兄と見えたるを本義なるべき本武内宿禰ありて始は官のごとくて後は姓となれり少兄チはなえ反ねなり

〔職官志一〕宿禰呼言寢其所之謂也知是爲内官近習

〔姓序考〕宿禰

宿禰姓は天武朝廷の詔に八色姓を改定め賜へるとき三曰宿禰とみえたりもとは稱言なりしを此御代に姓にせられし也宿禰は古事記下卷遠飛鳥宮の段穴穗御子の御歌に須久泥チとみえ

たれば然訓べし寶龜四年五月辛巳足尼爲宿禰とみえたれば舊は足尼といへりし也中太古宿禰は稱言なりしよしを云は穂積臣大水口宿禰崇神的臣砥田宿禰仁德紀男麻呂宿禰崇峻坂

合部連贊宿禰雄略大倭直長尾市宿禰垂仁武内宿禰波多八代宿禰野見宿禰等みな稱言なり雄略

宿禰は稱言なりしよしを云は穂積臣大水口宿禰崇神的臣砥田宿禰仁德紀男麻呂宿禰崇峻坂

合部連贊宿禰雄略大倭直長尾市宿禰垂仁武内宿禰波多八代宿禰野見宿禰等みな稱言なり雄略

宿禰は稱言なりしよしを云は穂積臣大水口宿禰崇神的臣砥田宿禰仁德紀男麻呂宿禰崇峻坂

合部連贊宿禰雄略大倭直長尾市宿禰垂仁武内宿禰波多八代宿禰野見宿禰等みな稱言なり雄略